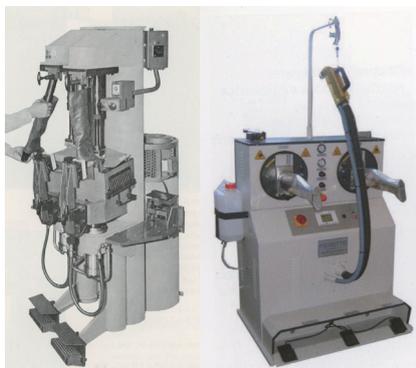


社会現象、産業変革を引き起こしたブーツブーム ①

シューフィル たち 城 いっ せい 生

「ブーツが広くタウンウエアとして女性にはかれたということは、ミニスカートにもまして、これはファッション革命、風俗革命だった」(千村典生「時代の気分を読む」)。



1: ブーツ専用の製靴機械などが数多く導入され技術向上にも結び付いた

1974年から79年にかけて続いたブーツブームは、女性の生き方やファッション市場への影響はもちろん、靴産

業にも様々な変革をもたらした。

製造分野では、ブーツ専用の甲部癖付機(クリンピングマシン)や筒部成形ヒーター、ヒール釘打機や底付機、コンピュータマシンなどが幅広く導入された。例えば、1台230万円程度するクリンピングマシンは77年シーズンだけで約200台も販売されるといった普及ぶりだった。素材や専用パーツの開発も積極的に行われ、当然のように製靴技術は飛躍的に向上した。付け加えれば、ブーツ用靴函、展示



2: 90年代の厚底ブーツ 90年代の厚底ブーツ

什器、専用キーパー、筒幅拡張器など関連付属品類も多様に開発され、販売を伸ばした。

流通面では、早期の素材・パーツの手当てと長期の製造期間が必要なため、綿密な情報収集とマーケティングが重要になる。また、資金投入のリスク回避のために展示受注会が前倒しで実施されるようになった。小売店サイドも、ヒット商品の確保のためにやむなく早期発注を行った。その仕入れ活動のための資金力や情報力の差が、さらなる企業間格差を生んでいった。

ブーツブームが去り80年代に入る頃からDC(デザイナー&キャラクター)ブランドブームが起こり、靴も本格的なファッション化時代に突入する。情報を集約して感性豊かな商品を企画生産し、イメージ戦略と共に展開していく。そんなビジネスの高度化・成熟化に対応する態勢も、ブーツブームの活気と競争の中から醸成されていった感が強い。

そして、ブーム後もブーツはファッションシューズの重要なアイテムとして定着し、

90年代のアムラブーツ(厚底)、2000年代のサンダルブーツや美脚ブーツなど、時代を闊歩する女性たちの足元を彩っている。



3: 2000年代の美脚ブーツ、サンダルブーツ